

君想曲（きおく）

松下 幹生

運河を見下ろす アパートの
セピア色した 四畳半
ささくれ立った 畳の上で
古いギターを 爪弾いて
思い出の曲 奏でて
あの頃 あの娘が 好きだった
想いのままに 口ずさむ

些細な事での 行き違い
思わず怒鳴って 手を挙げた
頬を押さえて 潤む君の瞳（め）
振り切るように 出て行った
止める事さえ 出来ぬ俺
あの頃 あの娘が 好きだった
取り返せない 蒼い日々

今でも苦く 思い出す
二人で聞いた ラブソング
あの頃 あの娘が 好きだった
取り返せない 遠い日々